

株式会社免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570



代表取締役社長 清藤 勉

平成30年6月1日（金）

- 平成30年3月期（第36期）決算報告（連結）
& 平成31年3月期（第37期）予想
- 研究開発&中期計画

平成30年3月期(第36期) セグメント別業績&37期予想

【診断・試薬事業】

単位:千円	35期 実績	36期 実績	増減	37期 予想	増減
売上高	556,015	605,745	+8.9%	630,000	+4.0%
営業利益	117,858	127,506	+8.2%	130,000	+2.0%

(業績:増収増益)

- ⇒ 主力製品のEIA測定キット、抗体の売上が国内・海外で販売増
- ⇒ 牛海綿状脳症(BSE)測定キットが販売増

(予想:増収増益)

- ⇒ 海外市場へ注力(海外代理店の増強、海外学会出展強化)
- ⇒ SSEA3抗体の海外販売強化(海外市場への周知、販促強化)
- ⇒ 臨床検査を実施するための設備投資、体制の構築を開始

安定した利益創出を目指す

平成30年3月期(第36期) セグメント別業績 & 37期予想

【遺伝子組換えカイコ事業】

単位:千円	35期実績	36期実績	増減	37期予想	増減
売上高	71,809	21,844	△69.6%	17,000	△22.2%
営業利益	△1,239,697	△179,240	△改善	△220,000	△悪化

(業績:減収、赤字幅減)

- ⇒ 前期、研究先からの契約金収入計上
- ⇒ 前期、研究施設を一括経費計上し、今期減価償却費負担減
- ⇒ アステラス製薬(株)との共同研究(フィブリノゲン)終了
- ⇒ (株)CUREDとの共同研究(抗HIV抗体)進展により、共同研究契約締結

(予想:研究開発に注力)

- ⇒ (株)CUREDとの共同研究に注力
- ⇒ 医薬品原料供給のためのGMP体制の構築

企業価値向上のために研究開発を継続

平成30年3月期(第36期) セグメント別業績 & 37期予想

【検査事業】

単位:千円	35期実績	36期実績	増減	37期予想	増減
売上高	105,228	115,988	+10.2%	135,000	+16.4%
営業利益	△18,309	10,634	黒字化	11,000	+3.4%

(業績:増収増益)

- ⇒ 主力製品のLipoSEARCH®が国内販売増
- ⇒ 前期、設備を一括損失計上したため、今期、減価償却負担軽減

(予想:増収増益)

- ⇒ 国内大型案件の獲得
- ⇒ 販売体制の強化により、販管費増

継続した利益創出を目指す

平成30年3月期(第36期) セグメント別業績 & 37期予想

【化粧品関連事業】

単位:千円	35期実績	36期実績	増減	37期予想	増減
売上高	13,804	21,267	+54.1%	200,000	+9.4倍
営業利益	△17,743	△8,651	改善	54,000	黒字化

(業績:増収増益)

- ⇒ 東南アジア向けに販売開始
- ⇒ 販売製造業の認可取得

(予想:増収増益)

- ⇒ 化粧品の中国向け販売開始(7月中国政府承認、11月販売開始)予定
- ⇒ 新原料(ヒトコラーゲンType-Ⅲ)開発に注力
- ⇒ 欧州向けに化粧品原料を販売(第4四半期)予定

事業規模拡大を目指す

平成30年3月期(第36期) 連結業績 & 37期予想

全社業績(連結) & 予想

(千円)	平成29年 3月期 (第35期)	平成30年 3月期 (第36期)	増減	平成31年 3月期予想 (第37期)	増減
売上高	741,525	758,286	+2.3%	982,000	+29.6%
売上総利益	414,782	476,978	+15.0%	547,000	+14.7%
営業利益 (△損失)	△1,156,931	△48,791	改善	△25,000	改善
経常利益 (△損失)	△1,170,355	△49,013	改善	△24,000	改善
親会社株主に帰 属する当期純利益 (△損失)	△2,094,467	△52,637	改善	△39,000	改善

貸借対照表（連結）

（百万円）	前期末	当期末	増減	主残高
流動資産	3,129	2,998	△130	現預金 2,510 固定資産 (土地) 122
固定資産	296	296	△—	
資産合計	3,425	3,295	△130	
流動負債	234	302	+67	転換社債 790 借入金 339
固定負債	1,849	975	△874	
負債合計	2,084	1,277	△807	
純資産合計	1,341	2,017	+676	
負債純資産合計	3,425	3,295	△130	

※ 転換社債の内訳
 (株)トランスジェニック 200百万円(200,000株)
 (株)ウイズ・パートナーズ 590百万円(739,500株)

※新株予約権の状況
 (株)ウイズ・パートナーズ 925百万円(1,160,000株)

□ キャッシュ・フロー（連結）

(千円)	H29年3月期 (第35期)	H30年3月期 (第36期)
営業CF	△55,886	<u>+73,847</u>
投資CF	△458,490	△6,278
財務CF	+2,145,528	△138,300
現金及び現金同等 物の期末残高	2,522,102	2,450,875

営業C/F⇒プラスを達成

- 平成30年3月期（第36期）決算報告（連結）
& 平成31年3月期（第37期）予想

■ 研究開発 & 中期計画

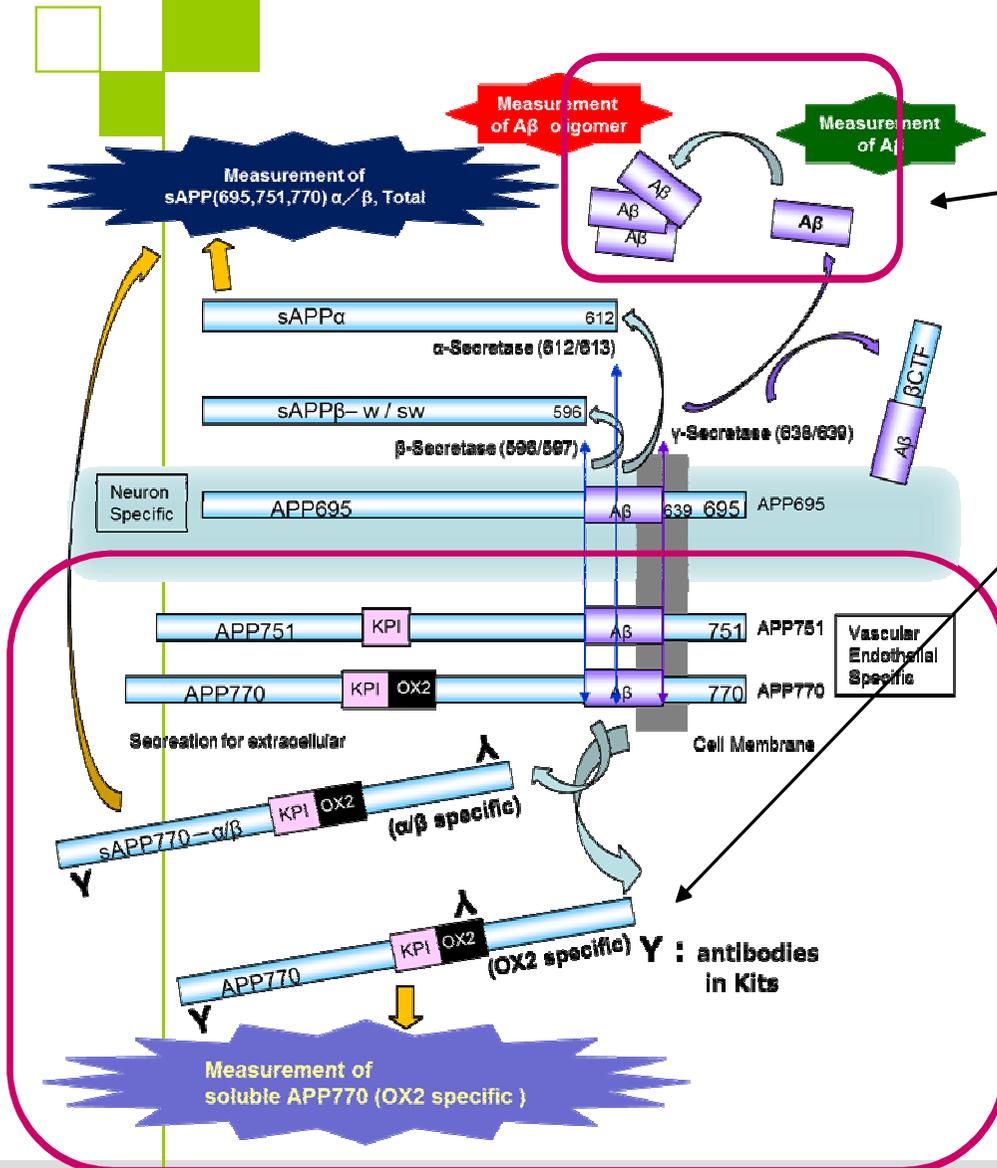
株式会社生命科学インスティテュート(LSII)とMuse細胞を用いた再生医療事業に関して共同研究を実施 ⇒ Muse細胞のマーカ、SSEA-3に対する新規モノクローナル抗体を開発し販売開始。

**IBL 新規特異的 Antibody
#10431 Anti-SSEA-3 (15B11)
Mouse IgG MoAb
for
SSEA-3 多能性幹細胞マーカー**

**IPS, EC, ES, Muse 細胞の研究に！
再生医療、がん幹細胞研究に！**

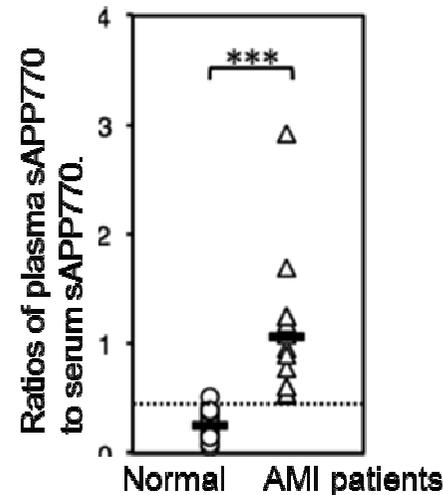
【診断・試薬事業】(研究項目)

急性心筋梗塞マーカーとして、他心疾患マーカーと併せて販促中



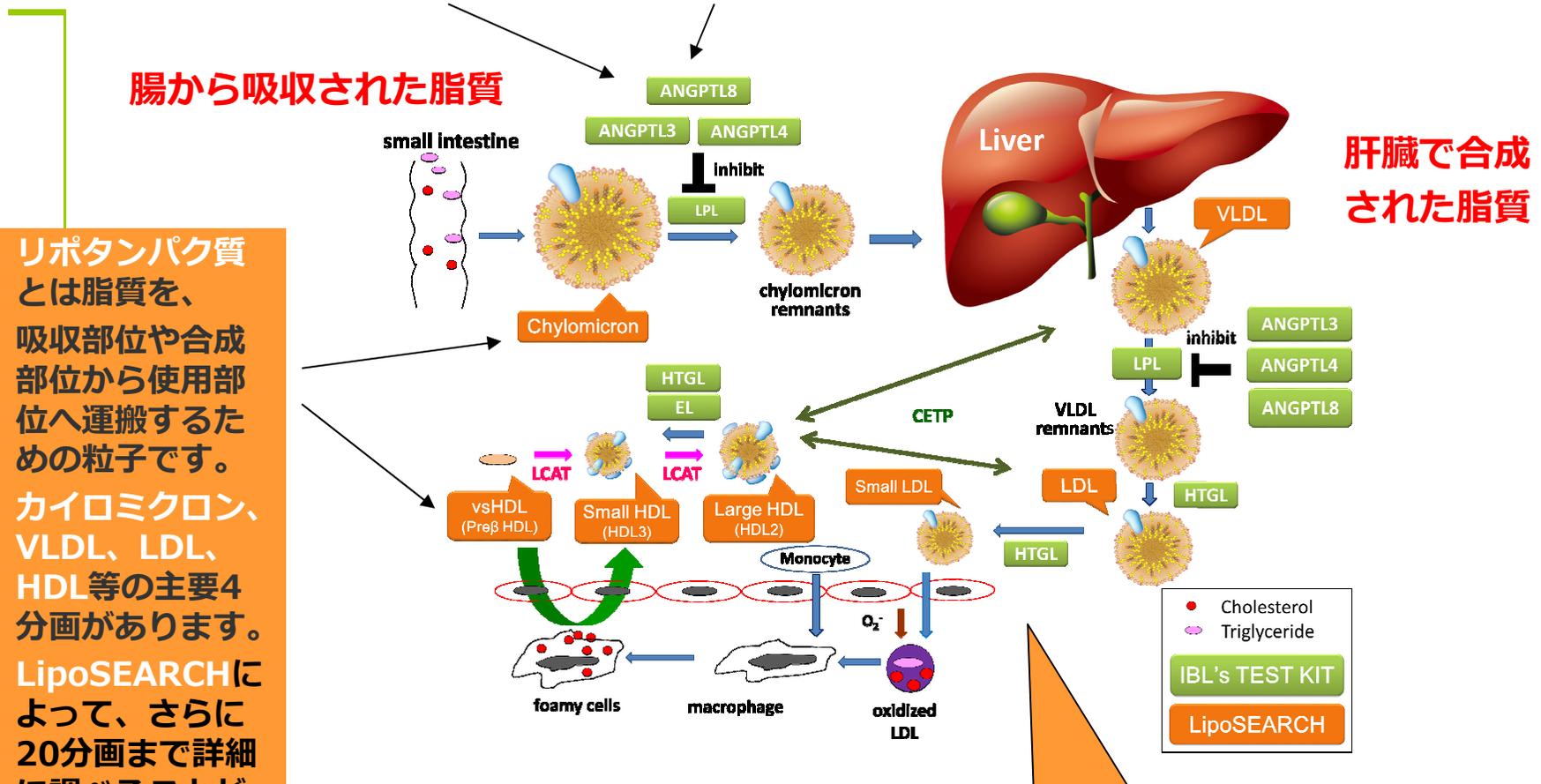
アルツハイマー病の関連分子である **アミロイドβ** の前駆体タンパク質 APP の中で、血管内皮に特異的に存在する分子 **APP770** を特異的に測定できる **キットを開発しました**

↓
急性心筋梗塞で入院した時の患者さんでは血液中の APP770 濃度が高いことがわかりました。



血漿中の sAPP770 は急性心筋梗塞患者(入院時)で高値を示す。

腸から吸収された脂質や肝臓で合成された脂質の生体内での代謝経路を示しています。
IBLではそれに関わる**脂肪分解酵素**、**タンパク質**などの測定キットをラインアップしています。



リポタンパク質とは脂質を、吸収部位や合成部位から使用部位へ運搬するための粒子です。カイロミクロン、VLDL、LDL、HDL等の主要4分画があります。LipoSEARCHによって、さらに20分画まで詳細に調べることができます。

Small LDLは超悪玉コレステロールといわれ血管の中に入り込み動脈硬化の原因となる

難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー「CTP (cochlino-tomato-protein)」に関する発明

日本国内は、(株)コスミックコーポレーションに薬事申請・販売の権利を譲渡⇒体外診断薬の承認申請に向けてデータ採取、資料作成中
海外は、研究用試薬として弊社販売代理店を通じて販売を開始。

成人T細胞白血病(ATL)の発症原因ウイルスHTLV-1が感染した細胞に関連するタンパク質に対する抗体及び測定系の開発

研究用試薬としての販売開始を37期第3Qに予定。

筋ジストロフィー患者の尿中に存在するタイチンというタンパク質に対するELISA測定系の開発

平成28年11月に研究用試薬として販売を開始
⇒病気の診断・病態・運動のモニタリングマーカー、診断薬へ開発中

(医薬品の実用化を目指す研究開発)**(株)CURED**

株式会社CUREDが所有する抗HIV抗体のADCC活性を当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いて飛躍的に増強させ、HIV感染症を治療する画期的な抗体医薬品の開発を進めております。研究は順調に進んでおり、今後、当社と株式会社CUREDは事業化を目指した共同開発を推進します。

琉球大学

琉球大学との共同研究により開発してきたヒト化抗HTLV-1抗体を遺伝子組換えカイコにて生産し、成人T細胞白血病(ATL)を治療する抗体医薬品を開発します。

(医薬品の実用化を目指す研究開発)共同研究先(導出先)を模索中

糖鎖構造の特徴から高ADCC活性抗体が生産できる遺伝子組換えカイコの利点を生かし、癌等を治療する抗体を製造し、バイオベターとして実用化することを目指します。

(動物医薬品の実用化を目指す研究開発)大手動物用医薬品メーカー

動物用医薬品メーカーと共同で、遺伝子組換えカイコによって動物用医薬品原料となるタンパク質の生産を進めております。遺伝子組換えカイコ生産技術の利点を最大限に生かし、高い安全性および有効性が要求される動物用医薬品の原料として活用することを目指します。

(研究用試薬・体外診断用医薬品原料としての抗体開発)

当事業の技術は、従来の製造方法に比べ、ロット間差が小さく、バックグラウンド値が低く、非特異的反応の低減等の大きな利点

⇒ この技術を活用し、当社の製品であるアミロイドβ測定キットに用いている抗体を、遺伝子組換えカイコ生産抗体に切り替えたほか、大手体外診断用医薬品メーカーへも、抗体の供給を行っております。

(スケールアップにより売上高の拡大を目指す)

iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミニン511-E8フラグメントを遺伝子組換えカイコにより開発・製造し

⇒株式会社ニッピおよび株式会社マトリクソームより販売中

(スケールアップにより売上高の拡大を目指す)

アレルギーを起こす危険性が低い安心・安全な化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅠ」を製品化

⇒化粧品業界へ展開し、国内外からの引き合いも増加傾向

新規原料の「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を早期実用化へ

⇒化粧品業界待望！赤ちゃんに多く含まれる希少なコラーゲン「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ(ベビーコラーゲン)」の製品化を目指す

(今後の課題)

研究開発項目の増加や製品化されているラミニン及びネオシルク・ヒト型コラーゲンの生産に必要な遺伝子組換えカイコの飼育頭数が劇的に増加するため、人工飼料のコストが増加

⇒桑の葉の確保及び人工飼料のコスト低減を図る

【検査事業】(LipoSEARCH)

(革新技術による測定サービスで売上高の拡大を目指す)

(診断・試薬事業との営業活動を共有化)

- ⇒国内外の学会に積極的参加。大学との共同研究の実施
- ⇒双方のマーケット市場において、販促活動を強化

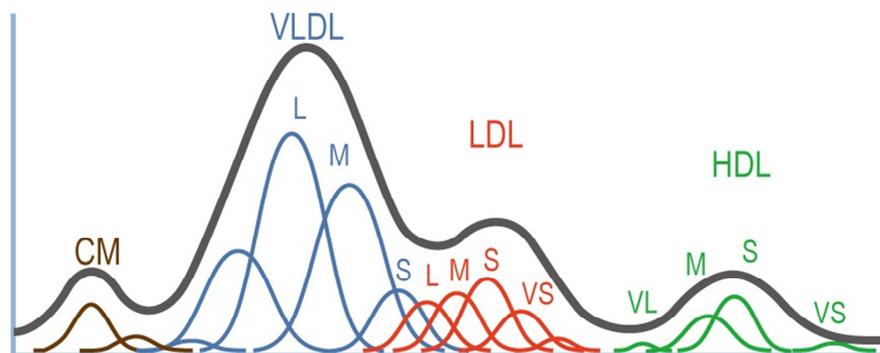
(革新技術による測定サービスで売上高の拡大を目指す)

- ⇒測定システムの導出を視野に入れて開発中
- ⇒リポタンパク質の「粒子サイズ」に加え「粒子数」の分析が可能
- ⇒コレステロールバランス(合成／吸収マーカー)測定サービス
- ⇒血中遊離コリン測定サービス

【検査事業】(LipoSEARCH)

LipoSEARCH – 血中リポタンパク質のプロファイリング

脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の研究検査、脂質代謝に係る治療薬の薬効試験、健康食品などの効能評価試験などでの試験で活用できます。



Major Class	CM		VLDL					LDL						HDL						
Component Peak No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Subclass Name	CM1	CM2	VLDL 1	VLDL 2	VLDL 3	VLDL 4	VLDL 5	LDL 1	LDL 2	LDL 3	LDL 4	LDL 5	LDL 6	HDL 1	HDL 2	HDL 3	HDL 4	HDL 5	HDL 6	HDL 7
Major Subclass Name	CM		L VLDL			M VLDL	S VLDL	L LDL	M LDL	S LDL	VS LDL		VL HDL	L HDL	M HDL	S HDL	VS HDL			
Particle Diameter (nm)	90	75	64	53.6	44.5	36.8	31.3	28.6	25.5	23	20.7	18.6	16.7	15	13.5	12.1	10.9	9.8	8.8	7.6

主要4分画から



20分画まで

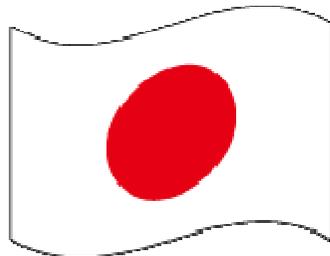
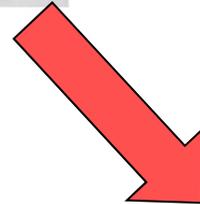
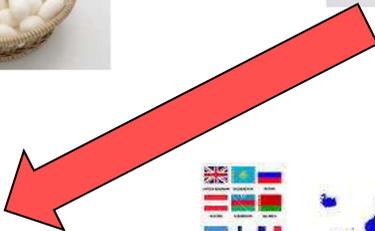
通常はLDL、HDLのコレステロール、中性脂肪ですが、それを20分画に分けて詳細に解析することでこれまで見えてこなかった薬剤の効果などが調べられます。



遺伝子組換えカイコ事業
化粧品原料(ヒト型コラーゲン生産)



化粧品関連事業(株ネオシルク化粧品)
化粧品販売(フレヴァン)



- 【日本】**
- ・通販事業(化粧品)
 - ・ドラッグストア(化粧品)
 - ・化粧品OEM会社(原料)



- 【欧州】**
- ・効能試験開始(原料)8月～
 - ・販売は、第4四半期以降(原料)



- 【中国・東南アジア】**
- ・東南アジアは販売開始
 - ・中国は、販売許可申請中(7月承認予定)
 - ・中国販売開始は、第3四半期中

新中期経営計画(連結)

	37期 予想	38期 計画	39期 計画
売上高	982	1,200	1,454
診断・試薬事業	630	660	740
遺伝子組換えカイコ事業	17	30	34
検査事業	135	160	180
化粧品関連事業	200	350	500
営業利益	△25	62	139
診断・試薬事業	130	150	170
遺伝子組換えカイコ事業	△220	△210	△216
検査事業	11	22	35
化粧品関連事業	54	100	150

※37期は、平成30年5月14日公表した「平成30年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の連結業績予想の数値となります。

※予想及び中計の数値には、契約金やマイルストーン等は、含めておりません。



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。